

7. 今後の対策

社名	今後の取り組み予定
A	<ul style="list-style-type: none"> ・照明のLED化(22年度) ・空調・熱源更新(19年度～23年度) ・外気冷房によるエネルギー消費低減(22年度)
B	<ul style="list-style-type: none"> ・照明の夜間など自動切断の導入、照明のLED化(継続) ・働き方改革と連動した本社のオフィス再編(2022～23年度)
C	<ul style="list-style-type: none"> ・照明のLED化と間引き ・空調の運転時間見直し ・老朽化した熱源装置や排気ファン、冷温水コイルなどの更新 ・冷水発生機、ボイラー等の運転時間削減
D	<ul style="list-style-type: none"> ・照明をLEDに更新 ・熱源設備(エアコン含む)やトランスを省エネ型に更新
E	<p>(本社ビル)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・照明のLED化を順次進めていく(2022年度) <p>(A工場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場内照明をLED化(2023年度) <p>(B工場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱源設備、空調設備の運用調整の実施(2022年度)
F	<ul style="list-style-type: none"> ・更新期を迎えた照明、および器具故障した照明のLED化(順次更新のため長期的に継続中) ・老朽化した設備の更新 <p>印刷工場の生産設備系空調機の更新(2021～23年)</p> <p>本社ビルのPAC空調機の更新(2025年頃から)</p>
G	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞制作用クラウド化(サーバー冷却用空調負荷の低減を含む)(2020年～23年) ・カーボンニュートラルの実現への調査と研究
H	<ul style="list-style-type: none"> ・各種用紙について、再生紙を増やす ・これまでの取り組みを継続的に行っていく ・脱炭素を考慮した取り組みを進めていく
I	<ul style="list-style-type: none"> ・館内の蛍光灯(直管型)を全てLEDに更新する
J	<ul style="list-style-type: none"> ・各本社では冷暖房の空調機器の温度設定をこれまで以上に徹底する。新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、在宅勤務を推奨しており、これまで以上の成果が期待できる。A本社、B本社が入居しているテナントビルの照明器具はLEDとなった。C本社においてもLEDへの交換が進むと予想される。自社ビルではないため、弊社の判断だけでは進めることはできないが、社員1人1人の省エネ意識を高める告知活動は継続していきたい。働き方改革を推進していくことで、消費電力の減少につなげていきたい
K	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度にDX推進プロジェクト本部を立ち上げ社内の働き方改革を推進。フリーアドレス化を中心に業務の無駄、物品の無駄を排除へ。その中で大幅なペーパーレスを目指す
L	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所照明のLED化
M	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーレス化の推進
N	<ul style="list-style-type: none"> ・事務室照明、ビル共用部照明のLED化(2022年度) ・トイレに人感センサー照明を導入(2022年度)
O	<ul style="list-style-type: none"> ・A支社LED改修工事(2022年度実施予定) ・B支社LED改修工事(2022年度実施予定) ・工場変圧器更新9台予定(2022～23年度)
P	<ul style="list-style-type: none"> ・「パソコン・OA機器等の省エネモード設定や不在時、昼休み時の電源オフの徹底」に、本格的に取り組んでいきたいと考えている(2022年度から) ・LED化されていない箇所の照明のLED化を検討していきたい(2022年から23年度)
Q	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷工場照明LED化(時期未定)
R	<ul style="list-style-type: none"> ・LED照明の推進
S	<ul style="list-style-type: none"> ・受変電設備更新に併せて高効率化機器の導入(2022年度) ・R22冷媒使用の老朽エアコン更新(2022年度～) ・太陽光発電設備の設置(2023年度～)
T	<ul style="list-style-type: none"> ・「稟議書の電子化」による紙の削減。将来的には通信社の配信記事の全量印刷を取りやめペーパーレス編集も
U	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷低減を目指した働き方、印刷用紙の損紙減少に向けた技術力向上を図っていきたい
V	<ul style="list-style-type: none"> ・空調機の更新(2026年以降)

社名	今後の取り組み予定
W	・2022年度は、社内の蛍光灯などの照明100か所をLED化する。その後、段階的に社内のLED化を進め、2025年度までに全館LED化する。また、老朽化が進む電気設備についても本年度更新する。社有車についてはリース更新時に段階的に省エネ対応型自動車へ転換してきたが、次期更新時には電気自動車の導入を目指す
X	・新輪転機導入に伴い4×1輪転機の採用（2021年度～23年度）
Y	・新工場建設(2024年竣工予定) ・既設工場の空調熱源を更新(2023～25年)
Z	・古い空調、衛生設備やLED照明等の電気設備をエネルギー効率が高いものに更新して消費電力を抑える（実施中） ・エアコン使用時、サーキュレーター等で室内を循環させるなど設備の運用で省エネを図る（実施中）
AA	・照明器具の全LED化（2022～25年）を推進中
AB	・「河川を美しくする運動」の継続発展 ・損紙削減、リサイクルの推進
AC	・印刷輪転機の更新（現在作業中）：最新機種への更新で消費電力の減少を見込む ・上記に合わせA本社の印刷工場照明のLED化：メーカーの選定など今後進めて行く予定だが、半導体不足による納期の遅れもあり、安定供給できるタイミングを探っている ・B本社の館内約2200灯のダウンライト用LED更新（2024年度まで）：前の質問でも書いたが、バックヤードなどを低照度のものに交換。消費電力の削減をすすめる
AD	・工場照明のLED化（2022年度予定）
AE	・オーバースペックの機器の削減
AF	・設備更新時に省エネ設備の導入検討
AG	・空調を省エネタイプのものに順次入れ替え
AH	・今後は削減目標数値の設定や、その達成に向けた社内の意識改革を推進していきたいと考えている。また、社内照明のLED化をさらに進めていく予定
AI	・本社内照明器具LEDに切替（2022年9月頃予定）
AJ	・印刷工場空調設備の入れ替え（数年以内）
AK	・老朽化した空調設備の更新 ・照明のLED化
AL	・2023年3月に行政機関、地元地区と連携し、植林、育樹活動に取り組む
AM	・減斤紙への移行による輸送時のCO2削減（2022年度中） ・印刷工場への太陽光発電導入検討（2022年度に検討着手）
AN	・本社ビルで更新できていない照明機器（蛍光灯）のLED化、既設のエアコン機器更新
AO	・本社・印刷工場にLED照明設備の導入(2022～24年度)
AP	・2023年秋ごろに新社屋への移転が計画されており、従来社屋で老朽・非効率などの課題がある設備の廃棄や使用停止、見直し・更新などが大幅に行われること、新社屋でのオフィス再編に伴いエネルギー効率最適化を図ることで、本社でのエネルギー消費が減少すると見込まれる
AQ	・2022年度の分社化で印刷工場が別会社となり、「特定事業者(エネルギーの使用の合理化等に関する法律)」から取り消された。しかしながら、連結対象である印刷工場の更なる高効率化は新聞社として重要課題とし、使用量の適宜把握を継続して行う
AR	・照明設備のLED化（毎年継続） ・刷版のリサイクルネットワークへの参加（毎年継続）
AS	・梱包用バンドを再生バンドへ ・梱包用フィルムの幅を短くする
AT	・輪転機や周辺機器の更新を控え、消費電力を抑えた機器導入を検討する。また、CTP更新で無処理版を導入する予定。また、空調関係も更新時期を迎えるため、省エネ機器の導入を検討する
AU	・機器設備更新の際は、省エネ効果の高い機器を導入する
AV	・廃棄物の分別等はある程度徹底されてきた。その過程で量の削減にも一定の成果が出た。コロナ禍で窓開け等、換気しながら空調する新たな習慣がついたため、空調負荷が高まっている。感染症対策を行いつつ、環境負荷を高めない方法を模索する必要がある ・テナントへの情報提供、協力要請も改めて行う予定